

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：33901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2022

課題番号：16K04114

研究課題名（和文）障害女性をめぐる差別構造への「交差性」概念を用いたアプローチ

研究課題名（英文）An Approach Using the Concept of "Intersectionality" to the Structure of Discrimination against Women with Disabilities

研究代表者

土屋 葉 (Tsuchiya, Yo)

愛知大学・文学部・教授

研究者番号：60339538

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：障害のある女性への差別は教育場面、仕事場面、医療場面、家族生活等において生成していた。これらの事例は差別の複雑さを浮き彫りにした。一つの大きな特徴は差別が特に家事や育児等の性別役割期待に根ざしていることであり、これらの規範に感じられない時に差別が生じていた。さらにこの規範を相対化できないことが、困難（「生きづらさ」）を生じさせていた。

また性暴力被害については想定以上に多くの障害女性が言及したが、性暴力に加えてそれ以外のハラスメントが存在していた。この背景には情報へのアクセス制限、権利擁護制度の欠如、児童期の逆境的環境、教育機関や福祉施設の不十分な対応等の根本的な要因があることが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

交差性という視点をを用いることにより、障害のある女性への差別が居住地域や学歴や職業・宗教経験等とも絡み合い生成している様を見出した。さらに、相談窓口の間口の狭さや、行政と福祉が連動している構造そのものが障害女性からの相談を困難にしていること、専門家や当事者グループとつながることが、彼女らの困難解消につながることを示した。彼女らへのエンパワメントのために、障害のある女性からの相談を念頭に置いた相談体制の整備とともに、当事者運動、当事者活動の存在が広く認知されることの重要性を指摘したことに、本研究の社会的意義を見出すことができる。

研究成果の概要（英文）：Discrimination against women with disabilities is prevalent in various areas such as education, employment, workplaces, healthcare settings, and family life. These cases highlight the complexity of discrimination. One significant characteristic is that discrimination is rooted in gender roles, particularly expectations related to housework and childcare. When women with disabilities are unable to meet these norms, discrimination occurs. Additionally, they often face challenges in their daily lives, called as "difficulty in living" in this report, when they are unable to challenge or modify these norms.

Furthermore, a higher number of women with disabilities than expected report instances of sexual harassment and sexual violence. Several underlying factors contribute to this issue, including limited access to information, lack of an advocacy system, adverse childhood environments, and inadequate responses from educational institutions and welfare facilities.

研究分野：社会学

キーワード：障害女性 差別 交差性

## 1. 研究開始当初の背景

2006年に国連で採択された障害者権利条約第6条「障害のある女性」では、障害女性の複合差別が言及されている。具体的には、「締約国は、障害のある女性及び少女が複合的な差別を受けていることを認識し、また、これに関しては、障害のある女性及び少女がすべての人権及び基本的自由を完全かつ平等に享有することを確保するための措置をとる」ことが明記されている。

しかし、日本国内の法律では明文化された規定がなく、2011年に改正された「障害者基本法」および2013年に制定された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」においても、「性別」への配慮というかたちで言及されたただけであった\*1)。

一方で、2012年にはDPI女性障害者ネットワークにより、障害のある女性の差別を明らかにすることを意図した初めての調査が行われた。報告書『障害のある女性の生活の困難』は、87人への質問紙調査により35%の人が性的被害を受けた経験があったことなど、深刻な実態を示している\*3)。

しかし、障害のある女性が受ける差別の実態を明らかにする試みはいまだ途上であり、複雑に絡み合う問題を把握するためのデータは圧倒的に不足している。

複合差別についてはこれまで理論、または施策レベルで検討されてきた\*3)。

まずは、国内においてデータが圧倒的に不足している複合差別の実態を明らかにすること、そして、それを政策のなかに生かしていくこと、同時に複合差別についての理論をより精緻化していくことが求められる。

## 2. 研究の目的

障害のある女性は「ディスアビリティ」と「ジェンダー」という2つの異なるポジショナリティによって差別状況におかれている集団である。本研究は「交差性(intersectionality)」という概念を用いて障害のある女性をめぐる複合的な差別構造を明らかにし、障害と女性について新たな知見を見出すことをめざす。具体的には生活史法を用いて、障害女性がこれまでの人生において経験してきた「生きづらさ」を描き出す。障害のある女性たちの語りを読み解くことから、生きづらさや差別の実態にアプローチし、差別を生み出す社会の構造について考える。一方で、障害女性は単に抑圧され差別される側における「ヴァルネラブル」な存在ではない。ここからそれらの「差別」に抵抗する、障害女性による生存のための戦略を明らかにしていく。また最終的には障害女性への体系的なエンパワメントモデルを構築するための、基礎的研究に資することをめざす。

## 3. 研究の方法

障害女性をめぐる差別構造については様々な視点から研究がなされてきたが、その蓄積は未だ不十分である。彼女らが置かれたより複雑な状況を描き出すために、差別の「交差性(intersectionality)」という概念を用いた。これにより、障害と女性に関する課題を明確に浮かび上がらせ、新たな知見を得ることができる。また、差別経験を詳細に明らかにするためには、個別の事例にあたるのが不可欠である。この際の方法として生活史法を用いた。この方法は、社会におけるマイノリティである人びとを対象とし、「まだ十分に知られていない社会的・歴史的リアリティの側面を照らし出す」\*4)こと、また人びとの人生のプロセスや日常生活の詳細を描き出すことを可能にする。とくに「障害」と「女性」という二つが交差する場所に置かれる障害のある女性の、日常生活における「差別」を受けた経験に焦点化するときに、適した方法である。ただ、「差別」という言葉からは、制度上の差別や社会からの排除など、大文字の「差別」が連想されやすい。そこで調査への協力を依頼するときには、「障害のある女性の生きづらさに関するインタビュー」であること、これまで経験した「生きづらさ」や「しんどさ」(生活する上での困難、不利益を被ったと感じたこと、うまくいっていない、つらい目にあっていると感じたこと)を聴きたいと伝えた。これにより、あらかじめ特定の「差別」の経験を措定し、その枠組みに沿って「語り」(「事例」)を収集するのではなく、彼女らにとって困難を感じさせた出来事やそれへの意味づけから、「差別」の経験を聴きとることができると考えた。

## 4. 研究成果

インターセクショナルリティの概念を整理したうえで、まず障害別の考察を行った。精神障害、発達障害、視覚障害のある女性を取り上げ、それぞれその障害特性や当該の障害をとりまく問題について指摘した。さらに「恋愛・結婚・妊娠・出産」「性暴力」「障害者運動」というテーマで、障害を横断する「問題」を取り上げ、さらに「生きづらさ」の生成過程および、「生きづらさ」への「抵抗戦略」についても考察した。このなかには肢体不自由、聴覚障害、難病、重複障害の女性が登場するが、知的障害のある女性の問題については触れることができなかったことは課題である。とくに知的障害のある女性の「恋愛・結婚・妊娠・出産」「性暴力」については、未だ十分に議論の俎上に載せられているとはいえず、今後取り組んでいくべきテーマである。

#### (1) インターセクショナリティという概念についての整理

交差性とは、「性差別や人種差別などを個別の問題として取り扱うのではなく、交差し合うものとして捉える視点」を意味する。この言葉はアフリカ系のアメリカ人女性の法律学者キンバリー・クレンショーが、人種差別や性差別など社会的平等の問題の多くがしばしば重なり合い、社会的不平等が多層構造になっているという現実を取り扱うために提起した言葉である。

インターセクショナリティという言葉をもぐって、さまざまな議論がある。具体的には、インターセクショナリティという言葉がもつ歴史性や、英語から日本語への翻訳過程がもつ困難も生じている。日本語では「交差性」「交差差別」、あるいは上野千鶴子の議論\*5)も参照されながら「複合差別」等の用いられ方をされるが、多様な意味をもちえてしまうがゆえにその活用や意味付けにおいて課題も提起されている。差別における「重なり」がもつ意味や効果によって用語としてのズレが生じかねない論争的なテーマではあるが、従来の差別のとらえ方から外れてきた事柄にまで関心をむけるために有益な概念である。

#### \* 障害別の考察

##### (2) 精神障害のある女性

精神障害の女性の生きづらさはさまざまな生活史上の出来事および日常生活において存在する。そして、生きづらさに影響を与えるものとして、症状に対する無理解や偏見があることが確認された。さらに、経験された生きづらさが症状そのものの発生や再発、悪化を引き起こすことが明らかになった。その中には、「女性は結婚をしなければならない」、「女性は家事をしなければならない」といった女性に関する社会規範が根底にあると推測される事例も存在した。

##### (3) 発達障害のある女性

発達障害のある女性の「生きづらさ」は、他者との関係のなかで生成される。とくに定型発達の人からすると「あたりまえ」と感じられることが、まったく異なるように思われるという経験（たとえば「ガールズトークについていけない」など）をしている。彼女たちは他者の要求に応えようとして頑張り、緊張し、「疲れ」を抱えつづける。こうした疲れが、行動の制約やコミュニケーションなどの不全をもたらし、日常生活、社会生活を困難にすると述べた。

##### (4) 視覚障害のある女性

視覚障害のある人は、ある時期まで職業としての三療業以外の進路選択が制限されていた。とくに女性は、三療に従事することにより性被害を経験するリスク、それによる仕事の制限等といった不利益があること、また医療場面での不利益な取り扱いや権利侵害があることを指摘した。また、結婚の条件としての稼働能力と育児・家事能力がないとみなされること、したがって生産能力が欠如しているという負のラベルを貼られ、社会との断絶を生じさせる。一方で、身近な他者やピアグループにおけるコミュニケーションのなかで、自己への信頼を取り戻したり、社会的価値を再編したりすることが、不利益解消の契機となることも指摘した。

#### \* テーマ別の考察

##### (5) 恋愛・結婚、妊娠・出産における差別

恋愛については身体規範、結婚については家事役割・嫁役割規範、妊娠、出産においても跡継ぎをもつけるという嫁役割規範がある。とくに親密圏からの排除と親密圏での抑圧というかたちの生きづらさがあることを指摘した。ただし、結婚、妊娠、出産を経験している人自体が少ないことに留意する必要がある。また女性規範に応じられない、そもそもその女性規範を相対化できないことが「生きづらさ」につながっていることを述べた。

##### (6) 性暴力被害

調査では、深刻な性暴力被害について、予想以上に多くのことが語られた。具体的な例から、加害者との関係は上司や先輩などといった上下の関係が成立していたこと、性暴力以外のハラスメントが存在している場合が多いこと、被害を申告しづらいこと、相談しても適切な対応がなかったことを指摘した。この背景として、障害ゆえの「可動性」の低さ、情報へのアクセス、権利擁護へのアクセスの困難、児童期の逆境的環境、学校教育で適切な対応がなされない、施設の職員体制の問題、性文化におけるダブルスタンダードがあることを示した。

##### (7) 障害者運動団体における、障害女性リーダーの「生きづらさ」

障害男性はリーダー的な位置から、障害女性に不利な慣行をつづけ、ときには批判的な言葉を投げかけ、「圧」をかけ、居心地の悪い思いをさせることがある。しかし「生きづらさ」は、障害男性によって作り出されるのみならず、障害女性自身が作り出すものでもある。障害女性は、女性はこうあるべきという規範を有し、そのことにより、悩みを抱えることがある。しかし、特定の主体を批判すべきではない。障害男性および障害女性を取り巻く健常者社会こそが問題だからである。つまり、健常者社会が障害男性を女性排除に向かわせることがあり、一方で、障害女性に対してジェンダー規範に従うよう誘導することがあるのだという。

(8) 「生きづらさ」をめぐる認識が生成される過程について

全体をとおして、聴きとりの場で、女性たちから「ことさら辛い経験はありません」と返されることは稀ではなかった。重ねて訊けばそれは「しょうがないことだから」、「たいしたことではないから」などと説明される。質問と回答を重ねるやり方で明らかになることもある。別様に言えば、障害女性の「生きづらさ」をめぐる認識は、聴きとりすなわち観察そのものによって生成され、ときには変化することが指摘され、描かれる「対話」に別様の解釈と理解を与えられる可能性があることを述べた。

(9) 「対抗戦略」について

「生きづらさ」に抵抗する戦略として、他者や公的機関へ訴えがなされていたケースもあった。しかし、相談窓口の間口の狭さや、行政と福祉が連動している構造そのものが相談を困難にし、問題への対処の困難を生じさせていた。一方で、専門家や当事者グループとつながることが、障害女性の現状認識や自己肯定を促し、現実的な制度利用等の行動につながっていた。これらから障害女性のエンパワメントのためには、障害のある女性からの訴えを念頭においた、場合によっては福祉行政から独立した相談窓口の整備とともに、当事者活動の存在がさらに広く認知され、ここにつながる複数の道すじがつくられることが重要であるという結論が導かれた。

なお本研究の成果の一部は、一般読者も対象とした書籍として刊行される予定である。

文献

- 1) 瀬山紀子, 2014, 「障害女性の複合差別の課題化はどこまで進んだか」『国際女性』28
- 2) DPI 女性障害者ネットワーク, 2012, 『障害のある女性の生活の困難：人生の中で出会う複合的な生きにくさとは 複合差別実態調査報告書』DPI 女性障害者ネットワーク.
- 3) 星加良司, 2007, 『障害とは何か』生活書院、Schiek, Dagmar, and Lawson, Anna (eds), 2013, *European Union non-discrimination law and intersectionality*, Ashgate.
- 4) 桜井厚, 2005年, 「ライフストーリー・インタビューをはじめ」桜井厚・小林多寿子編著『ライフストーリー・インタビュー：質的研究入門』せりか書房、11-52.
- 5) 上野千鶴子 (1995) 「複合差別論」井上俊他編『岩波講座現代社会学 15 差別と共生の社会学』岩波書店。(再録：上野千鶴子 (2015) 『差異の政治学』岩波書店.)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 土屋葉	4. 巻 50巻第14号
2. 論文標題 私たちのケアは、あなた一人が背負うには重すぎる：ケアを必要とする親と子どもが、それぞれ生きていくことについて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 127-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋葉	4. 巻 13
2. 論文標題 障害のある人と「コロナ」という禍：地域生活への影響を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東海社会学会年報	6. 最初と最後の頁 46-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 河口尚子	4. 巻 172
2. 論文標題 障害女性とインターセクショナリティ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 32-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 時岡新	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 何を聴き、どのように理解すべきか 障害女性の「生きづらさ」をめぐる生活史研究のねらいと困難	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 金城学院大学論集社会科学編	6. 最初と最後の頁 117-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 後藤悠里	4. 巻 17(2)
2. 論文標題 エイブリズムに対抗する実践：香港障害者差別禁止条例制定過程を対象として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 成城大学社会イノベーション研究	6. 最初と最後の頁 103-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 時岡新	4. 巻 11
2. 論文標題 アクティブ・インタビューと語りの生成－聞き（聴き）手と語り手が協働する“きき方”と“書き方”について－	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現象と秩序	6. 最初と最後の頁 5-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 後藤悠里・川島聡・原田新・池谷航介	4. 巻
2. 論文標題 「平成30年7月豪雨」における障害者の被災実態に関する調査および提言	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生協総研賞・第16回助成事業研究論文集	6. 最初と最後の頁 101 - 116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋葉	4. 巻 60(4)
2. 論文標題 麦倉泰子, 2019, 書評『施設とは何か：ライフストーリーから読み解く障害とケア』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会福祉学	6. 最初と最後の頁 106-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 土屋 葉	4. 巻 156
2. 論文標題 障害のある母親として地域で暮らす：語りから読み解く身体障害のある女性の「生きづらさ」(2)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文學論叢	6. 最初と最後の頁 25-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yo Tsuchiya	4. 巻 11
2. 論文標題 Introduction to Featured Articles: "Disabled Women and Sexuality"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Ars Vivendi Journal Special Issue: Disabled Women and Sexuality	6. 最初と最後の頁 24-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤悠里・佐藤剛介	4. 巻 14
2. 論文標題 合理的配慮は人びとにいか理解されているか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 障害学研究	6. 最初と最後の頁 248-271
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤悠里・佐藤剛介・村田淳・望月直人・桑原斉・中津真美・植田健男	4. 巻 1
2. 論文標題 高等教育機関における障害学生が抱える困りごとの検討 自由記述回答の分析を通して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 高等教育と障害	6. 最初と最後の頁 34-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河口尚子	4. 巻 2
2. 論文標題 障害女性の生きづらさに向かいあう	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館生存学研究	6. 最初と最後の頁 113-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Naoko Kawaguchi	4. 巻 11
2. 論文標題 Difficulties disabled women in Japan face with regard to love, marriage, and reproduction	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Ars Vivendi Journal	6. 最初と最後の頁 48-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤綾香	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 知的障害者就労支援施設間での「支援」の多様性：異なる障害者運動をルーツに持つ三団体の比較から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 保健医療社会学論集	6. 最初と最後の頁 50-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤綾香	4. 巻 1080
2. 論文標題 女性が活躍する企業・組織における労働組合員の関与	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Int'l ecowk	6. 最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 土屋 葉	4. 巻 155
2. 論文標題 「障害女性であるゆえに、悩みはつきない」：語りから読み解く障害のある女性の「生きづらさ」(1)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文學論叢	6. 最初と最後の頁 1,22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 土屋 葉	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 障害のある人と家族をめぐる研究動向と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 家族社会学研究	6. 最初と最後の頁 1,22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤悠里	4. 巻 -
2. 論文標題 複合差別という視点	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 手元においておきたい教職員のための学生対応ガイドブック(名古屋大学学生相談総合センター)	6. 最初と最後の頁 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬山紀子	4. 巻 45(8)
2. 論文標題 障害のある女性たちとの関わりから	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 166-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬山紀子	4. 巻 55
2. 論文標題 全国シェルターシンポジウム 障害女性分科会を開催して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 女性の安全と 健康のための支援教育センター通信	6. 最初と最後の頁 24,27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬山紀子	4. 巻 37
2. 論文標題 障害のある女性の抱える課題 : DV被害の課題を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京都女性相談 センター通信	6. 最初と最後の頁 1,2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井久実子	4. 巻 157
2. 論文標題 女性と障害の複合した差別状況に発して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 季刊福祉労働	6. 最初と最後の頁 93,95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井久実子	4. 巻 431
2. 論文標題 SDGsが目指す誰も取り残さない社会 ゴール10 各国内及び各国間の不平等を是正する	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ノーマライゼーション障害者の福祉	6. 最初と最後の頁 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋 葉	4. 巻 7
2. 論文標題 障害者福祉	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東三河の社会	6. 最初と最後の頁 455-464
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋 葉	4. 巻 -
2. 論文標題 障害者施策の展開と家族	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 月間福祉	6. 最初と最後の頁 54,55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋 葉	4. 巻 61(2)
2. 論文標題 書評 木村祐子著『発達障害支援の社会学：医療化と実践家の解釈』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ソシオロジ	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋 葉	4. 巻 6
2. 論文標題 支援の現場をたずねて さくらピア(豊橋市) あなたの避難先に障害者が来たら	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 支援	6. 最初と最後の頁 194,199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河口尚子	4. 巻 3
2. 論文標題 CEDAWにおける日本審査と障害女性の複合差別	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ジェンダー法研究	6. 最初と最後の頁 139,152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河口尚子	4. 巻 -
2. 論文標題 障害者の権利条約の審査に向けて 女性差別撤廃条約の審査のロビー活動の経験から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 すべての人の社会	6. 最初と最後の頁 4.5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河口尚子	4. 巻 36(5)
2. 論文標題 フォーラム2016 障害女性がジュネーブへ飛んだ!草の根の声よ、国連に響け! : 女性差別撤廃条約の本審査の傍聴・ロビー活動を行なって	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ノーマライゼーション : 障害者の福祉	6. 最初と最後の頁 40,42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河口尚子	4. 巻 11
2. 論文標題 書評 堀智久著『障害学のアイデンティティ : 日本における障害者運動の歴史から』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 障害学研究	6. 最初と最後の頁 284,296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河口尚子	4. 巻 50
2. 論文標題 DPI女性ネットワークだより(6)障害女性の課題のメインストリーム化のために女性差別撤廃委員会の勧告を生かそう!	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 女性の安全と健康のための支援教育センター通信	6. 最初と最後の頁 12,14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤綾香	4. 巻 45
2. 論文標題 「わっぱの会」における対抗文化的手法の変遷	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 社会学年報	6. 最初と最後の頁 51,61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤綾香	4. 巻 13
2. 論文標題 障害者運動における障害者と健常者の連帯的活動の展開 1970年代の「わっぱの会」の活動を事例に」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 福祉社会学研究	6. 最初と最後の頁 82,105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬山紀子	4. 巻 255
2. 論文標題 国連で問われた日本における障害女性の複合差別	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アジア研ワールドトレンド	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬山紀子	4. 巻 36(7)
2. 論文標題 World Now ドイツ障害女性団体訪問記	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ノーマライゼーション：障害者の福祉	6. 最初と最後の頁 41, 43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 瀬山紀子	4. 巻 30
2. 論文標題 DPI女性障害者ネットワークCEDAW傍聴&ロビー活動の報告(特集 第7・8次日本レポート審議)--(CEDAW傍聴と活動の記録)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 国際女性：年報	6. 最初と最後の頁 95,97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井久実子	4. 巻 149
2. 論文標題 障害女性の複合差別の視点から対応要領・指針案を読む	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 季刊福祉労働	6. 最初と最後の頁 92,99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井久実子	4. 巻 -
2. 論文標題 障害女性の複合差別の実態に関する調査	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ノーマライゼーション：障害者の福祉	6. 最初と最後の頁 20,21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 臼井久実子	4. 巻 3
2. 論文標題 日本の法制度と障害女性の複合差別 - 障害者権利条約の国内法への要請	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ジェンダー法研究	6. 最初と最後の頁 153,171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計30件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 土屋葉・後藤悠里・時岡新・渡辺克典・伊藤葉子・河口尚子
2. 発表標題 障害女性の「語り」のアーカイブ化とそれをういた「対話」へ向けて
3. 学会等名 第96回日本社会学会大会 社会学教育委員会企画テーマセッション「質的データのアーカイブ」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yo Tsuchiya
2. 発表標題 Family, Care, and Independent Living: A Study of Gender Perspective
3. 学会等名 East Asia Disability Studies Forum 2022 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yo Tsuchiya
2. 発表標題 Difficults des femmes en situation de handicap au Japon et mouvement sociaux
3. 学会等名 Perspectives franco-japonaises sur le handicap : Politiques et participation sociale (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuri Goto, Yasushi Ota, Satoshi Kawashima
2. 発表標題 Evacuation of Persons who Need Care in the 2018 West Japan Heavy Rain
3. 学会等名 Pacific Rim International Conference on Disability & Diversity (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 土屋 葉
2. 発表標題 調査研究の概要および対象者プロフィールについて
3. 学会等名 オンライン公開研究発表会「障害のある女性と『差別』 / 『生きづらさ』をめぐって」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 土屋 葉
2. 発表標題 視覚障害のある女性の「生きづらさ」 - 「不利益」経験に焦点化して -
3. 学会等名 オンライン公開研究発表会「障害のある女性と『差別』 / 『生きづらさ』をめぐって」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 時岡 新
2. 発表標題 何を聴き、どのように理解すべきか 障害女性の「生きづらさ」をめぐる生活史研究の(ねらい、可能性)と(困難)
3. 学会等名 オンライン公開研究発表会「障害のある女性と『差別』 / 『生きづらさ』をめぐって」
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 渡辺克典
2. 発表標題 交差性差別と「生きづらさ」へのアプローチ
3. 学会等名 オンライン公開研究発表会「障害のある女性と『差別』 / 『生きづらさ』をめぐって」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤悠里
2. 発表標題 障害者運動内における障害女性の経験する生きづらさとその要因
3. 学会等名 オンライン公開研究発表会「障害のある女性と『差別』 / 『生きづらさ』をめぐって」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤葉子
2. 発表標題 発達障害のある女性の「生きづらさ」 - とくにジェンダー規範をめぐって
3. 学会等名 オンライン公開研究発表会「障害のある女性と『差別』 / 『生きづらさ』をめぐって」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河口尚子
2. 発表標題 性暴力被害について
3. 学会等名 オンライン公開研究発表会「障害のある女性と『差別』 / 『生きづらさ』をめぐって」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuri Goto, You Tsuchiya, Naoko Kawaguchi
2. 発表標題 Research on the Difficulties of Women with a Mental Illness and the Role of Self-help Groups
3. 学会等名 The 9th East Asia Disability Studies Forum (EADSF) 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 時岡新・河口尚子・伊藤葉子
2. 発表標題 発達障害の女性の「生きづらさ」 - とくにジェンダー規範をめぐって
3. 学会等名 障害学会第16回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤悠里・川島聡・原田新・池谷航
2. 発表標題 災害時の障害者のヴァルネラビリティを高める社会的要因の検討 西日本豪雨の事例
3. 学会等名 障害学会第16回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 土屋葉・時岡新・河口尚子・後藤悠里・伊藤葉子
2. 発表標題 視覚障害のある女性の生きづらさ：仕事と性・生殖をめぐって
3. 学会等名 障害学会第15回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺克典・土屋葉・河口尚子・時岡新・伊藤葉子・伊藤綾香・伊東香純
2. 発表標題 障害女性の生きづらさに関する地域間比較（活動報告）
3. 学会等名 公開シンポジウム「人間科学と混合研究法の未来」2018年度人間科学研究所年次総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤葉子
2. 発表標題 －市民としてあたり前の生活を求める－愛知の重度身体障害者の運動から－
3. 学会等名 日本社会福祉学会第66回秋季大会 大会校企画シンポジウム「21世紀の社会福祉と『運動性』」シンポジスト（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 土屋葉・渡辺克典・後藤悠里・臼井久実子・瀬山紀子
2. 発表標題 障害のある女性の生きづらさ(1)：医療・介助場面に焦点化して
3. 学会等名 障害学会第14回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河口尚子・伊藤葉子・時岡新・秋風千恵
2. 発表標題 障害のある女性の生きづらさ(2)：恋愛/結婚・妊娠/出産と自己アイデンティティに焦点化して
3. 学会等名 障害学会第14回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡辺克典・土屋葉・河口尚子・後藤悠里・時岡新・伊藤綾香
2. 発表標題 障害女性研究における交差性アプローチ
3. 学会等名 第90回日本社会学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 障害のある女性が経験する「生きづらさ」と「交差性」：精神に障害のある女性の生活史に着目して
2. 発表標題 後藤悠里・土屋葉・渡辺克典・河口尚子・時岡新
3. 学会等名 第90回日本社会学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡辺克典・土屋葉・河口尚子・後藤悠里・時岡新・伊藤葉子・伊藤綾香・伊東香純
2. 発表標題 障害のある女性の生きづらさ
3. 学会等名 公開シンポジウム「研究者のライフ・イベントとワーク・ライフ・バランス」(2017年度人間科学研究所年次総会第2部)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 後藤悠里、佐藤剛介
2. 発表標題 「合理的配慮」を人々にいかに伝えていくか：質問紙調査の自由記述回答を手がかりに
3. 学会等名 障害学会第14回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河口尚子
2. 発表標題 障害女性の生きづらさに向かい合う
3. 学会等名 立命館土曜講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤綾香
2. 発表標題 異質な他者との「連帯」の検討：障害者と健常者との共同労働の試みから
3. 学会等名 第90回日本社会学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤綾香
2. 発表標題 障害者就労支援施設間にみられる「支援」の多様性
3. 学会等名 第10回東海社会学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ito, Ayaka
2. 発表標題 "How can we work with people with intellectual disabilities?: Comparative research on three facilities originating from various disability movements
3. 学会等名 East Asian Social Policy 14th conference
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤綾香
2. 発表標題 障害者就労における利用者 - 職員関係変容に向けた努力の形成：「わっぱの会」事業所「すずらん」を事例に
3. 学会等名 第14回福祉社会学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡辺克典
2. 発表標題 堀田義太郎「性差別の構造について」へのコメント
3. 学会等名 立命館大学生存学研究センター研究プロジェクト・フェミニズム研究会2016年度第3回（第52回）研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 瀬山紀子・河口尚子・佐々木貞子・真下弥生・臼井久実子・藤原久美子・加納 恵子
2. 発表標題 国連は障害女性の複合差別をどう取り上げたか 女性差別撤廃委員会ロビー 活動報告
3. 学会等名 障害学会第13回大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 増田雅暢・島田 美喜・平野かよ子（土屋 葉）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 メディカ出版	5. 総ページ数 280
3. 書名 社会福祉と社会保障 第5版（担当部分「第8章 生活と福祉」pp.243-256）	

1. 著者名 西原和久・杉本学編（後藤悠里）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 340
3. 書名 マイノリティ問題から考える社会学（担当部分「第2章 障害者とともに生きる」pp.39-58）	

1. 著者名 土屋 葉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 生活書院	5. 総ページ数 264
3. 書名 支援vol.10（担当部分「それでも、逃れがたきもの、「家族」」pp.50-59）	

1. 著者名 青木千帆子、瀬山紀子、立岩真也、田中恵美子、土屋葉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 生活書院	5. 総ページ数 396
3. 書名 往き還り繋ぐ：障害者運動 於&発 福島の50年	

1. 著者名 長谷川公一編（伊藤綾香）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 392
3. 書名 社会運動の現在 - - 市民社会の声（担当部分「第14章 障害者との共生をめぐる運動」pp.300 322）	

1. 著者名 長瀬修・川島聡編著（後藤悠里）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 532
3. 書名 障害者権利条約の実施（担当部分「香港」pp.443-458）	

1. 著者名 伊東利勝編著（土屋 葉）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 愛知大学人文社会学研究所	5. 総ページ数 218
3. 書名 「あなた」と「わたし」：内と外をへだてる知（担当部分「障害／障害者」はどのように生み出されるのかpp.153-173）	

1. 著者名 DPI日本会議（臼井久実子）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 現代書館	5. 総ページ数 174
3. 書名 障害者が街を歩けば差別に当たる?!当事者がつくる差別解消法ガイドライン（担当部分「複合差別・交差差別」）	

1. 著者名 時岡新	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 326
3. 書名 不自由な自由 を暮らす ある全身性障害者の自立生活	



1. 著者名 立命館大学生存学研究センター監修・渡辺克典編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ハーベスト社	5. 総ページ数 107
3. 書名 知のフロンティア 生存をめぐる研究の現場	

1. 著者名 渡辺克典編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 立命館大学生存学研究センター	5. 総ページ数 136
3. 書名 生存学研究センター報告 28 障害 / 社会をめぐる新たな展開と課題 連続セミナー「障害 / 社会」3	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>障害女性をめぐる差別構造への「交差性」概念を用いたアプローチ  <a href="http://www.nabe-labo.jp/wwd/index.html">http://www.nabe-labo.jp/wwd/index.html</a>          障害女性をめぐる差別構造への「交差性」概念を用いたアプローチ  <a href="http://www.nabe-labo.jp/wwd/html/archives.html">http://www.nabe-labo.jp/wwd/html/archives.html</a>          障害女性研究プロジェクト  <a href="https://www.ritsumeihuman.com/project/project1215/">https://www.ritsumeihuman.com/project/project1215/</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	時岡 新  (TOKIOKA Arata)  (30387592)	金城学院大学・国際情報学部・教授   (33905)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡辺 克典 (WATANABE Katsunori) (60509181)	徳島大学・大学院社会産業理工学研究部(社会総合科学域)・准教授  (16101)	
研究分担者	後藤 悠里 (GOTO Yuri) (70750199)	福山市立大学・その他部局等(英語特任)・特任教員  (25407)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	河口 尚子 (KAWAGUCHI Naoko)		
研究協力者	瀬山 紀子 (SEYAMA Noriko)		
研究協力者	臼井 久実子 (USUI Kumiko)		
研究協力者	伊藤 綾香 (ITO Ayaka)		
連携研究者	伊藤 葉子 (ITO Yoko) (80319144)	中京大学・現代社会学部・教授  (33908)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------